

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



三浦市低温卸売市場で4日朝、冷凍マグロの新年初取引が行われた。消費低迷を乗り越えようと、仲買人が活発な取引を繰り広げた。



contents

視点点描	3
社会の一隅を照らす	
講演録	4
シンポジウム「2021年の動向を読む」	
パネリスト 共同通信社	
政治部長	山根 士郎
経済部長	宮野 健男
外信部長	近澤 守康
コーディネーター	
神奈川新聞社論説主幹	鈴木 達也
2021年政治展望	10
首相、春以降の解散模索	
コロナ逆風、本命は秋か	
デモクラシーの現場から	14
五輪暗雲、開催可否判断に腐心	
くらし2021	16
届かない介護現場の声	
企業最前線	18
活発化する水産物の陸上養殖	
大企業、ベンチャーが連携	
アジアの風	20
無垢な人工知能はすぐ怪物になる	
NNAアジア経済レポート	21
神奈川景気データファイル	22
神奈川景気データファイル	23

事務局だより

◇2021年2月定例講演会
2月15日(月)午後1時30分～3時
ロイヤルホールヨコハマ2階
「ヴェルサイユ」
講師は株式会社関電工特別顧問の山口学氏
演題は「仕事への誇り・使命感～福島第一原発事故復旧の現実～」
※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては開催方法を変更する場合があります。

【お知らせ】神奈川政経懇話会ではホームページと会報「政経かながわ」に会員コーナーを設け、新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局 ☎045(226) 2121。

視点 点描



社会の一隅を照らす

昨年12月26日の紙面でインタビュー記事を掲載した。

湯澤さんは、大企業で海外事業

を担当するエリートビジネスマンから一転、父親の急死で36歳のとき、40億円の負債を抱えた倒産寸前の中小企業を事業承継した経験を持つ。当時、毎月の返済額は3

千万円超。艱難辛苦は「ある日突然40億円の借金を背負う―それでも人生はなんとかなる。」(PHP研究所)に詳しい。

巨額の借金に「心から笑うことは死ぬまでないと本気で思い込んでいた」。そんな日々を乗り越えてきた湯澤さんは今、コロナ禍の苦境にあつて、飲食業の規模の小ささは「強み」と言う。

「例えば、うちは三崎や長井から(顧客に提供する日の朝に水揚げされた)『本当の朝取り』の魚を仕入れている。新鮮でおいしいし、安い。でもそれは、うちの規

模だからできる。500店舗で『本当の朝取り』なんて不可能。規模の小ささは弱みにならない」

鳥料理、串カツ、ステーキと一業態がヒットすれば次々と追隨し、スケールメリットを追求すればするほど「同質化していく大手チェーン」に対し、小回りが効く個店こそ差別化を打ち出しやすい。

「中小企業は大企業になれなかった弱い存在ではない。中小には『社会の一隅を照らす』という固有の役割がある」と湯澤さん。

「特定の技術、商品、地域、何かに特化し、それを深めて社会に貢献できるのは、中小・零細企業、個人事業主だけ」と力を込める。

「どんなつらいことも必ず過ぎ去る」。度重なる窮地にも心折れず、会社を再生し完済した湯澤さんの言葉には実感がこもっていた。(神奈川新聞社経済部長

吉田 勝行)

東京商工リサーチによると、2020年の飲食業の倒産(負債額1千万円以上)は842件と過去最多を更新。コロナ禍で休業や時短営業に追い込まれた居酒屋は174件に上り、これまで最多だった12年の141件を上回った。

た居酒屋にとって、新年早々、2度目の緊急事態宣言の発出は、さらなる危機にほかならない。先行きに明るい兆しなど全く見えず、不安を抱えた居酒屋の経営者に少しでも役立つ記事を―。そうした思いから、大船の「海鮮居酒屋 七福水産」などを経営するユサワフードシステム(鎌倉市)社長の湯澤剛さん取材し、